

# 環境活動レポート2017

## 環境への取り組み

Environmental Activities

地球環境の保全と地域社会や自然との調和



ハウスコム株式会社

## 目次

<b>1. 基本的事項</b>	
1-1 報告にあたっての基本的要件	2
1-2 経営責任者の緒言	3
1-3 環境報告の概要	5
<b>2. 環境マネジメント等の環境配慮経営</b>	
2-1 環境配慮の方針	6
2-2 組織体制及びガバナンスの状況	7
2-3 ステークホルダーへの対応状況	8
2-4 バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	9
<b>3. 環境負荷及び環境配慮等の取り組み</b>	
3-1 2016年度目標とその結果	10
3-2 資源・エネルギーの投入状況	11
3-3 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	15
<b>4. 2017年度目標及び低減施策</b>	17
<b>5. 実績</b>	18

# 1. 基本的事項

## 1-1 報告にあたっての基本的要件

### <対象組織の範囲・対象期間>

#### 【報告対象組織】

品川イーストワンタワー（本社）と不動産賃貸事業を行う店舗と、リフォームコム（リフォーム事業の一部内製化に伴う原状回復事業）の営業所を対象としました。

2016年度末時点で店舗数は158店舗、リフォームコム営業所数は3営業所となります。

#### 【事業活動の内容】

不動産賃貸建物の仲介・管理業務・損害保険代理業

#### 【報告対象期間】

2016年度（2016年4月1日～2017年3月31日）

商号	ハウスコム株式会社
設立	1998年7月1日
資本金	4億2463万円
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQスタンダード上場（コード3275）
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	970人
事業所数	162拠点（本社+店舗+営業所）

（2017年3月31日現在）

### <対象範囲の捕捉率と対象期間の差異>

#### 【対象範囲の捕捉率】

報告対象組織の範囲は、ハウスコム株式会社本体としています。  
店舗・営業所含め捕捉率は100%です。

#### 【対象期間の差異】

報告対象期間の財務会計期間との差異はありません。

### <報告方針>

#### 【報告において採用した方針等に関する事項】

環境負荷の範囲は、当社で認識している化石燃料、購入エネルギー、その他購入・販売エネルギーとし、温室効果ガス排出量を算定しています。

電力使用量による温室効果ガスの計算では、各電力会社の排出係数を使用しています。

### <公表媒体の方針等>

#### 【公表媒体の方針】

環境に関する当社の取り組み、目標、実績について環境レポートを毎年当社コーポレートサイトにて掲載、説明しています。それ以外での公表は行っておりません。

環境レポートについての問い合わせは下記連絡先にて受け付けています。

#### «作成部署及び連絡先»

ハウスコム株式会社

環境管理事務局

電話：03-6717-6900（代表）

## 1-2 経営責任者の緒言

当社が主たる事業としている不動産賃貸仲介業においては、地域のなかで様々なステークホルダーとの良好な関係を維持することが非常に重要なものと位置付けられています。そうした観点から、地域における事業活動に伴う環境負荷低減の取り組みを継続することは当社にとっての社会的義務であると考えています。

また、不動産賃貸仲介業を行う店舗（158店舗）は電気、ガソリンの主なエネルギー使用拠点となっており、原状回復等を行うリフォームコム営業所（3営業所）は当社においての主な産業廃棄物の排出拠点となっております。このように当社は、2016年度末には160拠点を超える多くの拠点を運営している企業であり、全社的に環境問題に取り組むことが地球環境保全に役立つものと考えています。

このような観点から、当社はエネルギーや資源消費の削減に取り組んできました。電力、ガソリン、紙使用量について注力し削減施策を講じておりましたが、会社の規模拡大によるエネルギー使用拠点の増加により、使用総量という点においては大幅な削減には至りませんでした。ですが、業績を考慮に入れた売上高原単位の削減率は、電気、ガソリン、紙使用量のすべてにおいて削減がみられたことから、当社の環境保全対策の方向性は正しいものだと確信しております。

拠点数増加による総使用量の増加を抑制することは、長期的な課題として残されていますが、当社では化石燃料による温室効果ガス排出量の削減、使用効率向上を目的として、環境経営を実践しています。2016年度はガソリン使用量について、目標に達するには至らなかったため、2017年度はハイブリッド車、低燃費車の使用と共に、エコドライブのさらなる教育強化により燃費向上に注力してまいります。また、リフォームコム営業所の規模拡大に伴い、産業廃棄物排出量が増加していく見込みであり、最終処分量ならびにリサイクル量低減を目的としたバリューチェーンにおける環境配慮の取り組みを進めてまいります。

2017年度も使用量削減のための活動に工夫を加えながら取り組み続けるとともに、当社の社会に対する環境配慮という観点から、地域のみなさまへの貢献をしてまいります。

ハウスコム株式会社  
代表取締役 田村 穂



## 1-3 環境報告の概要

### <環境配慮経営等の概要>

当社の主な店舗・営業所の環境負荷（エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量）は、90%以上を電力とガソリンで占めています。電力の売上原単位でのみ目標を達成しましたが、電力総量、ガソリン総量・売上原単位においては目標を達成するには至りませんでした。

#### 1. 電力について

電力の総量は前年比0.7%削減、売上高原単位は前年比4.7%削減となっております。総量・売上高原単位ともに、前年より削減されております。2016年度は2015年度と比較し、店舗数が増加しているにもかかわらず、削減されていることから低減施策の有用であることを示すことができた結果であると考えます。当社の中期経営計画によれば、今後も毎年10店舗前後の出店が予定されており、電力も増加する見込みです。

現在、省エネ機器の導入やその他施策を実施していますが、さらなる施策の実施を進め、削減に取り組めます。

#### 2. ガソリンについて

ガソリンの総量は前年比2.1%増加、売上高原単位は前年比2.0%削減となっております。2015年度までの段階で低燃費車への切り替えが完了しており、店舗数の増加に伴い車両数も増加していることから、総量について削減するに至りませんでした。2016年度以降は、エコドライブの実践による燃費向上に注力し、社内教材等を利用し、継続して削減に取り組めます。

## 2.環境マネジメント等の環境配慮経営

### 2-1 環境配慮の方針

#### <環境方針>

私たちは全ての事業活動において、省資源、再利用、再資源（3R）に努め、地球環境の保全に積極的に取り組みます。また企業として、地域社会や自然との調和を重視し、良好な住環境を提案し続けます。

#### 【3R】

- 省資源 : 建物の長寿命化や省資源化に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
- 再利用 : 資材の再利用化に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
- 再資源 : 資源のリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。

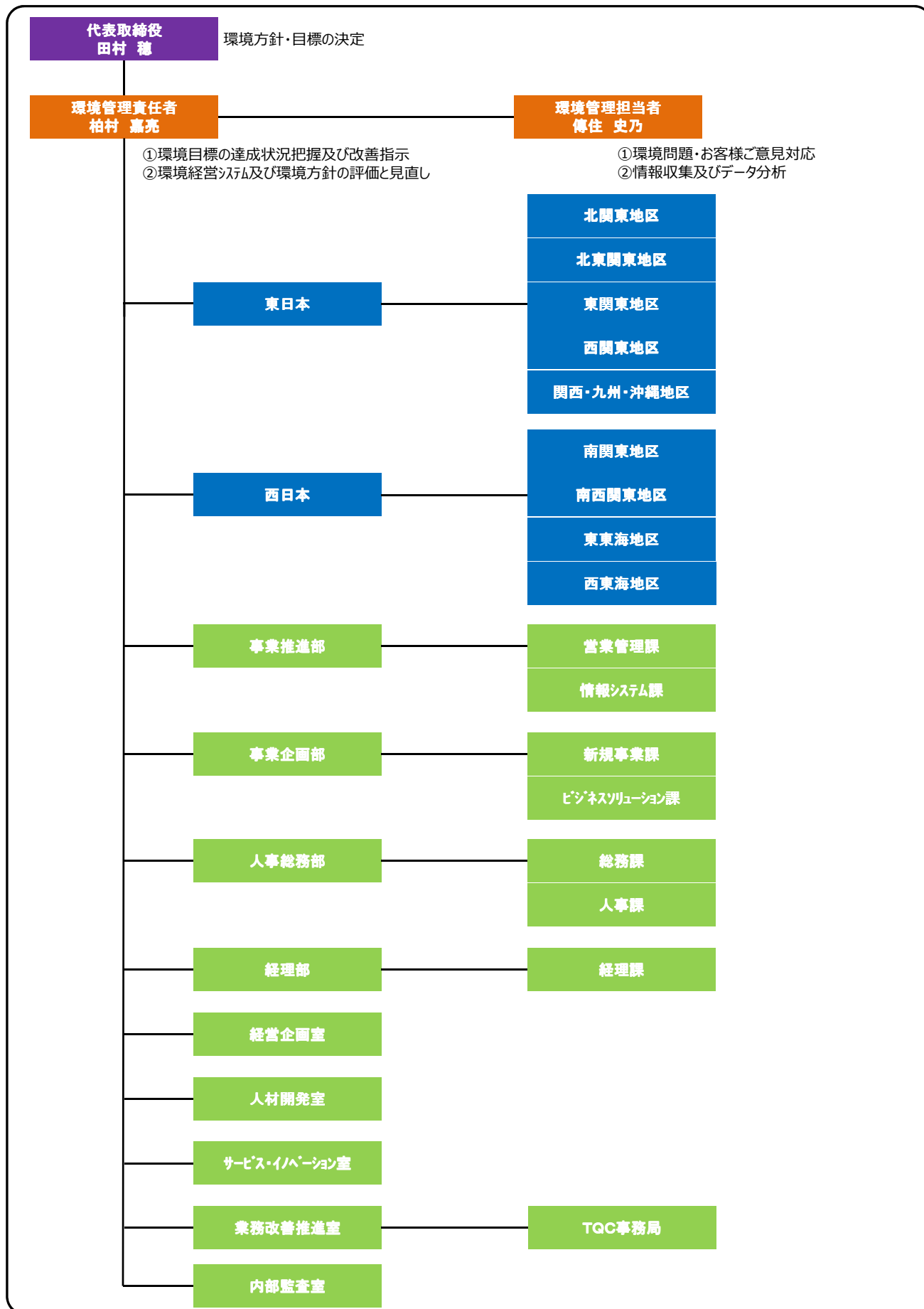
#### <環境行動方針>

- 法規制 : 環境に関連する法規を遵守し、事業活動を行います。
- 教育 : 啓蒙活動を継続して、全従業員が環境に優しい活動を率先して取り組みます。
- 省資源 : 建物の長寿命化や省資源化に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
- 再利用 : 資材の再利用化に取り組み、環境負荷の低減に努めます。
- 再資源 : 資源のリサイクルを推進し、環境負荷の低減に努めます。
- 創造 : 人に優しい住環境を提案し、より環境負荷の低減に繋がるサービスを提供します。



## 2-2 組織体制及びガバナンスの状況

### <環境配慮経営の組織体制>





### <環境に関する法規制等の遵守状況>

2016年度は関連法規に係る違反、訴訟、行政指導、行政処分はありませんでした。

大項目	項目	関連法規	評価	確認日
廃棄物 (発生・処理)	事業活動による事業系一般ごみの排出	廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）	◎	2017.4.21
	事業活動による産業廃棄物の排出			
	OA機器廃棄	家電リサイクル法（特定家庭用機器再商品化法）	◎	2017.4.21
	エアコン廃棄	フロン回収・破壊法（特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律）	◎	2017.4.21
大気汚染	エアコン・冷蔵庫からフロン漏出			
電気の消費	事業活動による電気の消費	省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）	◎	2017.4.21
地球温暖化	燃料・電力消費によるCO2排出	地球温暖化対策の推進に関する法律	◎	2017.4.21
森林減少	紙材の使用	地球温暖化対策の推進に関する法律	◎	2017.4.21
環境負荷	化学物質排出・移動	化学物質排出把握管理促進法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）	◎	2017.4.21
	水質汚濁物質排出	水質汚濁防止法	◎	2017.4.21

### 2-3 ステークホルダーへの対応状況

#### <ステークホルダーへの対応>

環境負荷や環境に関するご意見・ご要望・・・環境管理担当者  
 その他のお問い合わせ・・・・・・・・各担当部署

#### <環境に関する社会貢献活動等>

2016年度は社会貢献活動の実施はありませんでした。

## 2-4 バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況

### <バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針・戦略等>

提携業者への具体的な環境指導は行っておりません。今後必要に応じて提携業者への指導・監督を行える体制作りを検討いたします。

### <グリーン購入・調達>

現在、グリーン購入法（「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」〈平成12年法律第100号〉）に基づいたグリーン購入についての取組事項はありません。

### <環境関連の新技术・研究開発>

2016年度は環境関連の新技术・研究開発の実施はありませんでした。

### <環境に配慮した輸送>

ハイブリッド車と低燃費自動車の積極的導入を実施し、社内教材によるeスタートをはじめとしたエコドライブの教育に取り組みました。ガソリンの総量を削減するとともに、温室効果ガスの削減にも繋がります。

### <環境に配慮した資源・不動産開発／投資等>

2016年度は資源・不動産開発／投資等の実施はありませんでした。

### <環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル>

一般廃棄物に関しては、各店舗の管轄市区町村の回収ルールを遵守し、処分しています。産業廃棄物に関しては、提携業者により適法かつ適正に処理されています。毎年、東京都環境局へ産業廃棄物管理表（マニフェスト）交付等状況報告を実施しています。電子マニフェストへの移行は行いませんでした。

### 3.環境負荷及び環境配慮等の取り組み

#### 3-1 2016年度目標とその結果

##### <電力使用量>

目標	結果	低減施策
2.1%削減	総量 0.7%削減 売上高原単位 4.7%削減	クールビズ ノー残業デー 社内web環境の時間制限

##### <ガソリン使用量>

目標	結果	低減施策
2.1%削減	総量 2.1%増加 売上高原単位 2.0%削減	ハイブリッド車の積極的導入 社内教材によるエコドライブ教育

##### <紙使用量>

目標	結果	低減施策
2.1%削減	総量 1.2%削減 売上高原単位 5.1%削減	両面、Nアップ印刷の推奨 ノートパソコン使用によるパーパーレス化

### 3-2 エネルギー投入量及び低減施策

#### 電力

	2015年度	2016年度	削減率(%)
総量 (kwh)	2,491,350.9	2,473,659.5	0.7
売上高原単位 (kwh/億)	26,770.9	25,518.5	4.7

#### 《 低減施策 》

##### 1. クールビズ

5～10月までクールビズを例年通り実施いたしました。店舗にもクールビズの取り組みポスターを掲示し、お客様にもご理解いただいております。また2016年度より新たな取り組みとして通年ノーネクタイのトライアルを実施いたしました。



##### 2. Web環境の時間制限

社内の共有ネットワーク（Web環境）の使用可能時間を平日は20時まで、休日・祝日は21時までとしました。就業時間の短縮により、大幅な節電効果がありました。

### 3. ライトダウン運動2016



大東建託グループで開催している、全グループ会社の拠点を対象としたライトダウン運動に参加いたしました。

ライトダウン運動を実施することで削減し得る電気消費量をスギの苗木が育つ時に吸収するCO2の量に換算し、同量を植林するための管理費用を寄付しています。2016年度は大東建託株式会社より、422本分のスギ植林管理費用が岩手県住田町へ寄付されました。

#### 当社寄付分

対象店舗	157店舗
節電量	535.4kwh
スギ換算本数	約22本



### 4. 週1回のノー残業デーの実施

2015年度は月1回のノー残業デーを設定しておりましたが、2016年度から週1回の実施といたしました。節電効果もありますが、業務効率化やプライベート時間の確保等、波及効果は大きいものでした。

### 5. LEDライトの使用・こまめなスイッチOFF

全店舗、営業所の電灯はLEDライトを使用しています。また、社内教育や終礼時の声掛けを行い、使用していない箇所の電灯のスイッチをこまめにOFFにすることを徹底しています。



## ガソリン

	2015年度	2016年度	削減率(%)
総量 (ℓ)	196,931.2	201,029.7	-2.1
売上高原単位 (ℓ/億)	2,116.1	2,073.8	2.0

### 《 低減施策 》

#### 1. ハイブリッド車、低燃費車の積極的導入

ハイブリッド車（アクア）と低燃費自動車（ミライース）の積極的導入を実施しました。当社で使用している営業車はすべてハイブリッド車か低燃費車です。



	理想燃費
アクア	37.0km/L
ミライース	32.5km/L



#### 2. 社内教材によるエコドライブ教育



社内教材eラーニングを利用し、エコドライブについて教育を行いました。「eスタート」、「アイドリングストップ」について説明し、燃費の向上を目的といたしました。

また、「安全につながるエコドライブ」という観点から、一部の従業員を対象に教習所でのトレーニングを実施しました。環境配慮だけでなく、事故率低減にも寄与することができました。



## 紙資源

	2015年度	2016年度	削減率(%)
総量 (t)	50.2	49.6	1.2
売上高原単位 (t/億)	0.54	0.51	5.1

### 《 施策内容 》

#### 1. Nアップ印刷・両面印刷の推奨

規格が定まっていない印刷を行う際は、Nアップ印刷や両面印刷を推奨しています。個人情報以外の裏紙はシュレッダーせずに、メモ紙や再生紙として使用しています。



#### 2. 会議資料のペーパーレス化

使用しているPCをノートPC化することにより、会議資料を印刷することなく画面上で進行いたしました。これにより、本社にて行うすべての会議資料が削減でき、臨時の打ち合わせ等を含めると大幅な資源削減となりました。

#### 3. 帳票のシステム化

提出書類をシステム入力に切り替えることにより、紙資源の削減だけでなく、印刷にかかる費用、書類の郵送代の削減につながりました。紙として出力しなければならない書類に関しても、簡略化を行うことにより資源量、作業量の削減につながりました。



### 3-2 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況

#### <温室効果ガスの排出量>

##### 温室効果ガス（総排出量）

総排出量		2015年度	2016年度	削減率(%)
電力 (t-CO2)		1,258.0	1,254.7	0.3
化石燃料	ガソリン (t-CO2)	457.2	446.7	-2.0
	都市ガス (t-CO2)	0.3	0.3	0.0
	LPG (t-CO2)	0.2	0.1	50.0

##### 温室効果ガス（売上高原単位）

総排出量		2015年度	2016年度	削減率(%)
電力 (t-CO2)		13.5	12.9	4.4
化石燃料	ガソリン (t-CO2)	4.9	4.8	2.0
	都市ガス (t-CO2)	0.003	0.002	33.3
	LPG (t-CO2)	0.002	0.001	50.0

2016年度は2015年度と比較し、温室効果ガスは総排出量についてガソリン以外はすべて削減されております。売上原単位に関しては、すべての項目について削減されております。都市ガス、LPGについては使用拠点が少ないこともあり、大幅な削減となっております。

※電力の温室効果ガスの算出方法は、各電力会社が開示している係数を用いて算出しています。



## <廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量>

### 廃棄物総排出量

	2015年度	2016年度	削減率 (%)
排出総量 (t)	298.9	335.8	-12.3
売上高原単位 (t/億)	3.2	3.5	-9.4

### 廃棄物最終処分量

	2015年度	2016年度	削減率 (%)
最終処分量 (t)	18.8	47.1	-250.5
売上高原単位 (t/億)	0.2	0.5	-250.0

2016年度は2015年度と比較し、廃棄物の総排出量・最終処分量について総量・売上高原単位ともに大幅に増加しました。

これは、2015年5月より開始したリフォームコム（リフォーム事業の一部内製化に伴う原状回復事業）の営業所数が増加したことによる廃棄物の発生が主な要因となります。

今後も営業所数が増加していく見込みのため、廃棄物についても同様に増加する見込みです。

## 4.2017年度目標及び低減施策

### 【電力】

《目標値》

-2.1%

《低減施策》

クールビズ、週1回のノー残業デー、社内web環境の時間制限を実施します。

### 【化石燃料：ガソリン】

《目標値》

-2.1%

《低減施策》

新規車両はハイブリッド車を積極的に導入します。  
また、エコドライブの継続実施のため、環境教育を実施します。

### 【紙資源】

《目標値》

-2.1%

《低減施策》

電子文書や両面印刷、Nアップ印刷を推奨します。  
帳票の見直しを行い、ペーパーレス化の強化を行います。

### 【廃棄物等総排出量・最終処分量】

《目標値》

-2.1%

《低減施策》

最終処分量を減少させるため、各店舗・営業所でのごみ分別に取り組みます。  
資源ごみのリサイクルに努めるよう、環境教育を実施します。

## 5. 実績

### 環境への負荷状況

		単位	2015年度	2016年度
①総エネルギー投入量	購入電力	M J	24,838,466.4	24,489,229.0
	化石燃料	M J	6,815,607.3	6,967,332.5
	新エネルギー	M J	0.0	0.0
	熱エネルギー	M J	126,490.0	161,487.0
②総物質投入量	資源投入量	t	50.2	49.6
	循環資源投入量	t	0.0	0.0
③水資源投入量	上水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	工業用水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	地下水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	雨水、再生水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
④温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2	2,151,328.8	2,246,190.0
	メタン	kg-CO2	0.0	0.0
	一酸化炭素	kg-CO2	0.0	0.0
	H F C	kg-CO2	0.0	0.0
	P H C	kg-CO2	0.0	0.0
	六フッ素硫黄	kg-CO2	0.0	0.0
⑤化学物質排出量	大気への排出量	t	0.0	0.0
	公共用水域への排出	t	0.0	0.0
	土壌への排出	t	0.0	0.0
⑥排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	下水道	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	B O D	g	0.0	0.0
⑦廃棄等総排出量	循環資源量	t	124.1	267.0
	単純焼却	t	155.0	185.9
	最終処分	t	18.8	47.0

### ① 総エネルギー投入量

	単位	2015年度		2016年度		単位熱量 (B)	
		使用量 (A)	エネルギー量 (A×B)	使用量 (A)	エネルギー量 (A×B)		
購入電力	Kwh	2,491,320.6	24,838,466.4	2,473,659.5	24,489,229.0	9.9	
化石燃料	灯油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	36.7
	A重油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	39.1
	都市ガス	Nm <sup>3</sup>	132.0	5,913.6	126.9	5,685.1	44.8
	液化天然ガス (LNG)	kg	0.0	0.0	0.0	0.0	54.6
	液化石油ガス (LPG)	kg	128.3	6,517.1	118.5	6,019.8	50.8
	ガソリン	ℓ	196,623.6	6,803,176.6	201,029.7	6,955,627.6	34.6
	軽油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	37.7
新エネルギー	太陽光	Kwh	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	太陽熱	Kwh	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	風力	Kwh	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	水力	Kwh	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	熱量電池	Kwh	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
	廃棄物	Kwh	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6
他	蒸気	MJ		2,310.0		23,564.0	
	冷水	MJ		124,180.0		137,923.0	
合計	MJ		31,780,563.7		31,618,048.5		

## ② 総物質投入量

	単位	2015年度	2016年度
紙資源	t	50.2	49.6
循環資源	t	0.0	0.0
その他	t	0.0	0.0
合計	t	50.2	49.6

## ③ 水資源投入量

	単位	2015年度	2016年度
上水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
工業用水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
地下水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
海水、河川水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
雨水、再生水	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
合計	m <sup>3</sup>	0.0	0.0

#### ④ 温室効果ガス排出量

		単位	2015年度		2016年度		排出係数 (B)	
			使用量 (A)	エネルギー量 (A×B) or(A×B×C)	使用量 (A)	エネルギー量 (A×B) or(A×B×C)		
エネルギー	購入電力	Kwh	2,491,320.6	1,257,989.9	2,473,659.5	1,254,700.8	※1	
	灯油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.06783*C	
	A重油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.06930*C	
	都市ガス	Nm <sup>3</sup>	132.0	294.9	126.9	283.5	0.04987*C	
	液化天然ガス (LNG)	kg	0.0	0.0	0.0	0.0	0.04950*C	
	液化石油ガス (LPG)	kg	128.3	384.7	118.5	335.3	0.05903*C	
	ガソリン	ℓ	196,623.6	457,207.3	201,029.7	466,722.7	0.06710*C	
	軽油	ℓ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.06857*C	
	蒸気	MJ	2,310.0	131.7	23,564.0	1,343.1	0.057	
	冷水	MJ	124,180.0	7,078.3	137,923.0	7,861.6	0.057	
処 理 廃 棄 物 焼 却	一般廃棄物	t	154.6	428,242.0	185.9	514,943.0	2,770.0	
	産 業 廃 棄 物	廃油	t	0.0	0.0	0.0	0.0	2,920.0
		廃プラスチック	t	0.0	0.0	0.0	0.0	2,550.0
合計		kg-CO <sub>2</sub>		2,151,328.8		2,246,190.0		

#### 係数 (C)

	単位発熱量
灯油	36.7
A重油	39.1
都市ガス	44.8
液化天然ガス (LNG)	54.6
液化石油ガス (LPG)	50.8
ガソリン	34.6
軽油	37.7

#### ※ 1

	2015年度	2016年度
東京電力	0.505	0.5
中部電力	0.497	0.486
関西電力	0.531	0.509
九州電力	0.584	0.509
沖縄電力	0.816	0.802
大東エナジー	0.566	0.512

⑤ 化学物質保管量・排出量

			単位	2015年度			2016年度		
				排出量	移動量	保管量	排出量	移動量	保管量
PRTR法対象物質	フロン類	HFC	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		PFC	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		フロン類	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	PCB		t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	石綿		t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	SF6		t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計			t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

⑤ 排水量

		単位	2015年度	2016年度
公共用水路	河川	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	湖沼	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	海域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	各種水路	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
下水		m <sup>3</sup>	0.0	0.0
水質汚濁物質	BOD	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
	COD	m <sup>3</sup>	0.0	0.0
合計		m <sup>3</sup>	0.0	0.0

⑦ 廃棄物等総排出量

		単位	2015年度			2016年度		
			循環資源量	単純焼却	最終処分	循環資源量	単純焼却	最終処分
一般廃棄物		t	9.6	155.0	0.0	11.5	185.9	0.0
産業廃棄物	汚泥	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	がれき類	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ばいじん	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	金属くず	t	26.9	0.0	0.0	67.4	0.0	0.0
	廃プラ	t	60.7	0.0	15.2	151.8	0.0	37.9
	その他	t	26.9	0.0	3.6	36.3	0.0	9.1
	廃油	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	廃酸・廃アルカリ	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	有害産業廃棄物	t	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		t	124.1	155.0	18.8	267.0	185.9	47.0